

教 育 長 様

研究コース	
A グループ研究 A	
校園コード (代表者校園の市費コード)	
511001	

代表者	校園名 : 大阪市立桜宮中学校
	校園長名 : 向井 秀俊
	電話 : 6921 - 6934
	事務職員名 : 櫛谷 葵
申請者	校園名 : 大阪市立桜宮中学校
	職名・名前 : 首席 小野 裕司
	電話 : 6921 - 6934

令和5年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	さくらのみや農園 ～農作物の自給自足を通して学ぶSDGs～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立して記載してください。</p> <p>1. 土づくりから作物を育てることで、毎日食べている食材が流通する社会的仕組みを知る。また、その体験を通じて、世界的な課題と向き合っていく。（キャリア教育） 2. 生き物を育てていく過程で発生する諸問題に、科学的見地に立ち、主体的に問題解決を図る。（理数教育の推進、「主体的・対話的で深い学び」の研究） 3. 自然に触れ合うことによって、道徳的観点である「生命の尊さ、自然愛護、感動・畏敬の念」を醸成する。（道徳教育の推進） 4. 学年全員で協力しながら、作物を育てることで、インクルーシブ教育の推進を図る。（インクルーシブ教育の推進） 5. 収穫した食材を調理し、食することで、感謝の気持ちを育む。（食育の推進、エディブル・スクールヤード）</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>＜現状と課題＞ 大阪市内の中心部にある本校に通う生徒は、自然と触れ合う機会は極めて少なく、農業や林業、漁業といった第1次産業に触れる機会も極めて少ない。普段食べている食材がどのように作られ、どのように運ばれ、どのように目の前に食事として出てきているか、実感がない生徒も少なくない。また、デジタル技術の発展、スマートフォンやタブレットの普及、AIやロボットの活躍が進む中、そのことに関する教育は多く行われるようになっている。しかしながら、一方で世界的に地球温暖化による気候変動や生物多様性の保全に向けた取り組み、海洋プラスチック問題など、自然と人とのかかわりに関する課題が多く出てきているのにもかかわらず、そのような教育は多く行われていない現状がある。</p> <p>＜研究の内容詳細＞ 上記のような課題を持つ本校生徒が、自然との触れ合いを通じて世界的な課題にまで向き合うことができるようにしていくことがこの取り組みの大きなテーマである。そこで、実際に校内に農園を形成し、土づくりから始め、種を蒔き、育て、収穫し、食べるという一連の流れを体験することで、生き物を通して自然との触れ合いを図る。また、そのことを記録、発表していくことで啓蒙活動を行い、自然と人とのかかわりについてより深く考える機会を作る。この取り組みを行っていく過程において、様々な分野の方々との触れ合いも生徒にとっての財産となる。さらに、この取り組みは作物を継続的に育てていくことで出てくる課題を、主体的に解決することも大きなテーマである。一過性の体験ではなく、それを継続していくことの大切さが日々の食料を支えているからである。季節や天候など様々な気象条件を肌身に感じながら、世界的課題を見つめる力を養いたい。</p> <p>＜研究の汎用性、継続性など＞ 大阪市内の学校に通う生徒は少なからず上記のような課題を抱えていると考えられる。また、どの学校においても校内に家庭菜園程度の場所はあると考えられる。そこでこの取り組みが一部の生徒ではなく、全生徒の活動として、世界的な課題に向かっての学びの場となり、校内資源の新たな活用法になると考える。</p> <p>(2)継続研究 [2年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>(3)継続研究 [3年目]</p>			

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>5月 生徒アンケートの実施「何を作りたいか?」</p> <p>5~6月 「さくらのみや農園」の農園づくり 場所の選定(運動場の一部を想定)・レンガ組、土づくり(土壤改良) 種まき・苗植え作業(ナス・トマト・きゅうり・大豆)[栽培:技術科]</p> <p>6月 夏休み 苗植え作業(サツマイモ) 水やり当番 ホームページにて生徒による「さくらのみや農園日記」の開始 草むしり作業</p> <p>9月 様々な施設へ収穫物の提供 大根の種まき</p> <p>10月 文化祭にて「さくらのみや農園」の成果発表 調理実習「焼き芋」(家庭科)</p> <p>11月 外部講師 種苗業者の方による講演</p> <p>12月 世界の食糧事情についての学習(社会) 研究発表会(桜宮中学校にて)</p> <p>1月 次年度に向けた計画</p> <p>2月 収穫量を上げるための研究 味噌づくり(家庭科) 日本の食料自給率について学ぶ</p> <p>3月 大根の収穫 通年 気象観測の実施(理科)</p> <p>【2年目】 ・土曜授業での炊き出しの実施、ふろふき大根、防災授業</p>
		、 ・全国○○科研究大会 千葉大会参加 ・ICTを活用した○○教育の実践者研修会参加 ・授業研究会の指導助言 講師:○○大学 ○○○○教授 年4回実施
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究(2年目、3年目)において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。 理由</p> <p><input type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。(いずれかに☑を入れてください)</p> <p>【見込まれる成果1】 <input checked="" type="checkbox"/>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/>教員の資質や指導力の向上 さくらのみや農園づくりや、農作物の自給自足を通して、社会的仕組みを理解することができる。また、体験活動を通じて世界的な課題と向き合うことができるようになる。</p> <p>『《検証方法》 年度末の学校アンケート「学校は、実験、観察、実習、校外学習や職場体験など、体験を重視した授業を行っている」の問い合わせに肯定的に回答する生徒を80%以上にする。(令和4年度77%)</p> <p>【見込まれる成果2】 <input checked="" type="checkbox"/>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/>教員の資質や指導力の向上 「さくらのみや農園」づくりや、農作物の自給自足を通して、学校生活に対する生徒の満足度を上げることができる。</p> <p>『《検証方法》 年度末の学校アンケート「わたしは、学校生活を楽しみにしている」の問い合わせに最も肯定的な回答をする生徒を50%以上にする。(令和4年度45.8%)</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>農作物の自給自足を通して、自然に触れることで自己肯定感を高めることができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>5月と12月実施の生徒アンケート「自分には、よいところがある」の項目において肯定的に回答する生徒の割合を5ポイント向上させる。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和6年2月22日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="450 961 1419 1028"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 5 年 12 月 17 日</td> <td>場所</td> <td>桜宮中学校</td> </tr> </table> <p>◆waku^{x2}.com-bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="450 1105 990 1172"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 2 月 29 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 5 年 12 月 17 日	場所	桜宮中学校	日程	令和 6 年 2 月 29 日
日程	令和 5 年 12 月 17 日	場所	桜宮中学校					
日程	令和 6 年 2 月 29 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>これまで私自身は校長として特別支援学級の子どもたちを中心に指導しながら、小学校5年・中学校5年の計10年間、野菜作りを行ってきた。その中で子どもたちが目を輝かせながら活動する様子をたくさん見てきた。また、その活動を見守る多くの児童・生徒たちが、都会では日頃見ることができない野菜作りに非常に大きな関心を持っていることもわかっている。今回、首席の小野が中心となり学校全体での活動へと広げ、SDGs等を含めた壮大な計画を立ててくれた。工夫することで都会の敷地が小さな学校でも取り組めることができるることをこの研究で示し、全市校園に発信できることと思っている。本校の子どもたちはもちろんのこと全市の子どもたちが、土に触れあい自然を感じながら心豊かな大人へと成長してくれることを願っている。是非とも本校の研修を実施させていただきたいと強くお願いする。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p>						
		<p>3. 継続研究（3年目）</p>						